

経済マンスリー

[アジア]

タイバーツ安の背景にある経常収支の赤字化

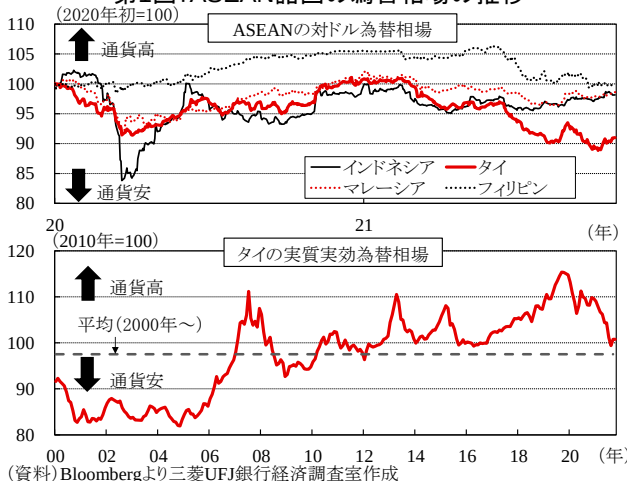
今年に入り ASEAN 全体で対ドルでの通貨安が進んできたが、その中でもコロナ禍以前は通貨高圧力の強かったタイでは特に下落幅が大きく、ASEAN 全体の通貨が急激に下落した昨年の新型コロナウイルスの感染第1波時を下回る水準となっている（第1図・上）。

他方、タイの実質実効為替相場の推移をみると、コロナ禍前までは上昇基調にあったため、足元の下落を経た後の水準は長期平均に回帰したに過ぎないことが分かる（第1図・下）。同国の輸出企業は継続的なバーツ高への対応に苦慮してきた経緯があり、今回の通貨安はこれまでの行き過ぎた通貨高が是正されたものとも捉えられる。

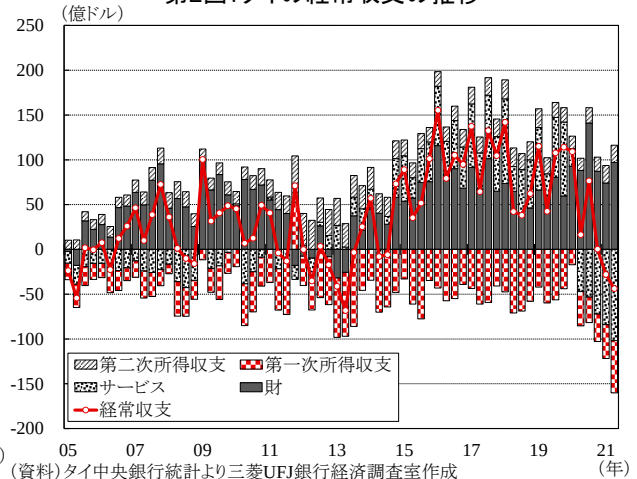
もっとも、今回のバーツ安はタイ経済の柱である観光業の落ち込みと表裏一体であることには注意を要する。近年、同国は観光業の成長により国際観光収入は名目 GDP の 10% 超を占めるまでに拡大し、サービス収支、ひいては経常収支の改善を牽引してきた。しかし、コロナ禍による国境封鎖の影響により 2019 年には年間約 4,000 万人であった海外からの観光客数が略ゼロにまで急減し、足元でもその状況に大きな変化はない。こうしたことから、今年に入るとこれまでタイバーツの強さを支えていた経常収支黒字が約 6 年ぶりに赤字に転じ、さらにその赤字幅は拡大傾向にある（第2図）。今回のバーツ安は、コロナ禍による景気悪化に加え、主力産業である観光業の落ち込みを受けた経常収支の赤字化も大きな切っ掛けとなっている可能性が高く、必ずしも楽観視はできない。

観光業低迷の副産物といえる今回のバーツ安だが、価格競争力の強化を通じて経済のもう一つの柱である財輸出の拡大を促進し、観光業回復までの景気をサポートする要因となるだろう。但し、タイ中銀は来年の観光客数を 600 万人と見込んでいること等から、観光業の本格的な回復までには数年を要すると予想され、経常赤字及びバーツ安の地合いは暫く続くとみられる。市場で徐々に意識されてきている米国での利上げ開始時に、タイからの資金流出圧力が更に強まり、想定外のバーツ安を招くリスクにも目配りが必要であろう。

第1図: ASEAN諸国の為替相場の推移



第2図: タイの経常収支の推移



照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 野瀬 陽平 youhei_nose@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。